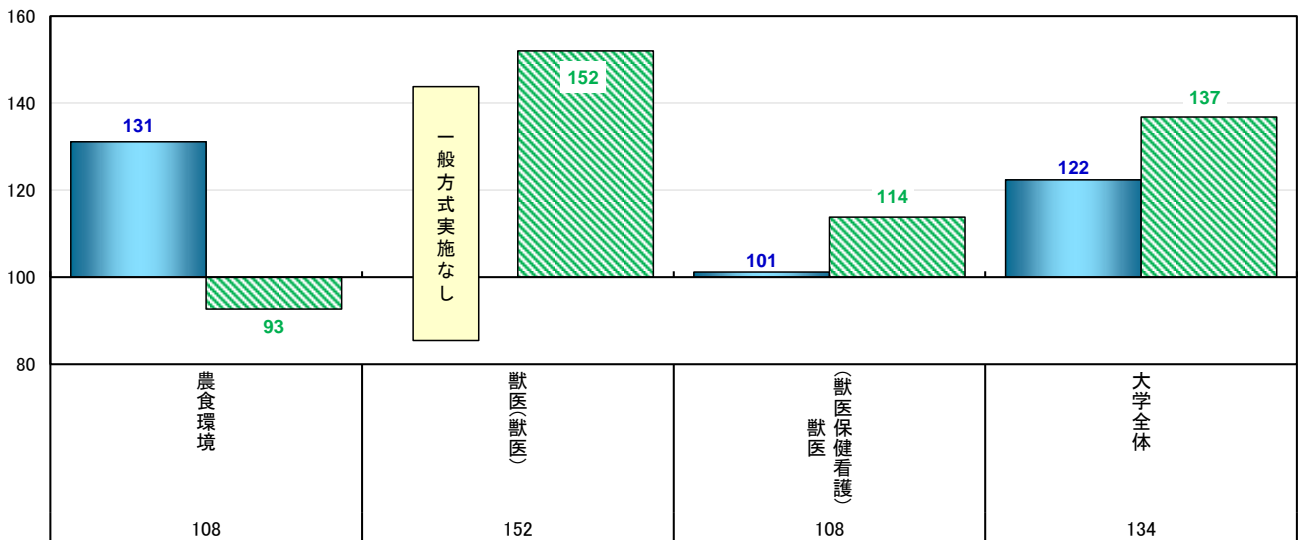


酪農学園大：大学全体では5年ぶり増加、共テ方式は2年連続大幅増加 一般：+66人 共テ：+513人

※前年度の志願者数を100とする指数
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



主な入試変更点 選抜方法：獣医(獣医)…<共テ併用・第1期(A日程/理科重点)>新規実施
 <共テ併用・第2期理科重点>…<個>理<100>→<個>理<200> ※配点を変更して理科重点型へ
 募集人員：獣医(獣医)…<共テ併用・第1期(A日程/通常)>57人→50人

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、コロナ禍の中で遠距離大学への進学を敬遠する傾向が緩和され、579人(134)の大幅増加で5年ぶりに増加したが、2020年度対比では(100)でほぼ同数。学群(獣医は学類)別では、獣医(獣医)(152)は共通テスト併用方式で理科重点型を新規実施した影響もあり、大幅増加で5年ぶりに増加。志願者数は4年ぶりに1,500人を上回った。獣医(獣医保健看護)(108)は増加で3年連続増加、農食環境(108)も増加で2018年度以降前年度の反動による増減が継続。方式別では、一般方式は66人(122)の大幅増加だが、前年度一般方式を廃止した獣医(獣医)を除くと2020年度対比では(78)の大幅減少。一方で、共通テスト利用方式は513人(137)で2年連続大幅増加。獣医(獣医)の共通テスト併用方式で理科重点型の新規実施に加え、<共テ併用・第1期>を除いて共通テスト受験後の出願が可能のため、共通テストの平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願も影響。ただし、大きな入試変更を行った獣医(獣医)を除くと、前年度の大幅減少に引き続き(97)のやや減少で2年連続減少。

<一般方式>

- 農食環境(131)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加だが、2020年度対比では(77)の大幅減少。学類・コース別では、全ての学類・コースで増加。特に、(循環農)(162)は3年連続大幅減少の反動で激増、(食と健康)(140)は前年度減少率約70%の激減だった反動で大幅増加。ただし、2020年度対比で増加したのは(循環農)のみ。
- 獣医(獣医保健看護)(101)は、微増。志願者数は2019年度以降80人台で推移。方式別では、新設2年目の<一般・第1期>(113)は増加、<一般・第2期>(58)は減少率40%以上の大幅減少と対照的。

<共通テスト利用方式>

- 農食環境(93)は、前年度大幅減少に引き続き、やや減少で2年連続減少。志願者数は300人を下回った。学類・コース別では、(食と健康)(57)は大幅減少で4年連続減少。(食と健康/管理栄養士)(79)も2年連続大幅減少。(環境共生)(107)は前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加。(循環農)(102)は、前年度大幅減少の反動はなく微増に留まった。
- 獣医(獣医)(152)は、前年度は一般方式を廃止し、共通テスト利用(併用)方式しか選択肢がなくなったことで、4倍近い激増だったが、引き続き大幅増加で、志願者数は1,500人を上回った。新規実施方式の<共テ併用・第1期(A日程/理科重点)>を除いても(112)の増加。方式別では、理科の配点を高くし理科重点型に変更した<共テ併用・第2期理科重点>(191)は倍増に近い大幅増加。<共テ併用・第1期>を除いて共通テスト受験後の出願が可能のため、共通テストの平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願も影響。
- 獣医(獣医保健看護)(114)は、増加で2年連続増加。方式別では、<共テ・前期>(111)は増加で2年連続増加、<共テ・後期>(143)は3年連続大幅増加。